

心を耕し70年、文化連盟協議会

昨年11月28日、改善センターにて文化連盟協議会の創立70周年記念式典が行われました(同会主催)。文化連盟は戦後間もない1952(昭和27)年、明日への希望となる活力と潤いを求めて発足。各サークルが地域文化の発展と会員相互の親睦・研さんに務めてきました。2014(平成26)年度からは、外国人留学生と加盟サークルとの交流を開始。留学生は日本文化を体験し、会員は他国の文化を理解することで交流を深めています。栄東昇会長は「現在は16団体168名で活動しています。近年増えている移住されてくる方に



▲栄東会長

▲岳加代会による祝舞

も活動を知ってもらい、輪を広げていきたい」と、同会のみならずの発展を祈念。またこの式典に合わせ、7代目会長として2008(平成20)年から2019(令和元)年まで尽力された故・林房司氏に感謝状が贈られました。松岡町長は「世代を超えて1つの団体が70年を刻むのは稀な事。東川の発展は、文化の心である。共に暮らす、考え方が定着しているからだと思う。これからも皆さんが共に集い、語り、学び、創りに、楽しむ、心を耕す活動が展開されることを願います」と祝辞を述べました。文化連盟にどんなサークルがあるかご興味のある方は、生涯学習推進課へお問合せを!

絵本と、親子と、それからみすず

昨年12月4日、「金子みすずの世界展」の開始に合わせ、せんとびゅあーで親子朗読会を開催しました。前半はJULA出版の柴崎大輔さんによる、みすずの作品が世に出るまでのお話。百年前、新しい情報は雑誌や本から入ってくる時代でした。今では考えられませんが、大正時代は「子どもにも大人と同じように個性や感情がある」と世界中が気づいた時期でした。子どもも自由に感じて表現して良いことを、子どもにわかる言葉で表現しようと生まれたのが「童謡」です。みすずが取り組んだのは、そんな当時最先端の表現方法でし



た。現代のYouTubeやTikTokと同じように「面白い」「自分と同じ考えた」と共感するツールだったと思うと、作品がまた違って見えるのではないのでしょうか。後半は「おはなしの会ピッピ」の親子3組が『おやこでよもう!金子みすず』シリーズを朗読しました。このシリーズはお子さんでも読めるようにひらがなで書かれているので、親子で「美しい日本語」に触れることができます。せんとびゅあーほんの森にも所蔵されているので、あなたも時代を超えて「こんなところがみすずと一緒にだ」と発見してみませんか?

写真のポスカは誰が元へ

昨年12月3日・4日、文化ギャラリーのスタジオで「ポストカード撮影会」が行われました。「東川町写真の町実行委員会」企画委員の発案で、2020(令和2)年夏に開催し人気だった「ポストカード展」から発展したイベントです。今回は開催時期に合わせ、クリスマスに

ちなんだサンタ帽子やトナカイのカチューシャなどの小物も準備万端!小さなお子さんを笑顔にしようとするスタッフも小道具を駆使して大わらわで、楽しく撮影していただきました。お気に入りの1枚を選んだら、



その場でポストカードに印刷してプレゼント。家族の記念に、仲間で楽しく、遠くにいるあの人へお手紙を。写真をデータでお渡しするサービスもあり、年賀状用に、と干支にちなんだトラのぬいぐるみを持参された方もいらっしゃいまし

た。参加後はハズレなしのガチャガチャを回すこともでき、こちらもお子さんに喜んでもらえたようです。思い思いに完成したポストカードは、誰のもとに届いたのでしょうか。実行委では今後も楽しい企画を考えているそうなので、お楽しみに!

空の窓口、空港の東川ミーツ周年

昨年11月20日・21日、東川ミーツ旭川空港エアポート・リライノコーナーの1周年記念イベントが開催されました(主催:東川振興公社)。新型コロナウイルスが落ち着き、旭川空港も少しずつ活気を取り戻している時期だった当時。HUC(東川ユニバーサルカード)会員は抽選で最大5千ポイント、外れでもおまねく100ポイントがもらえることもあって、両日ともに多くの方が来場されました。現在4店舗を展開する「東川町に、出会う店」東川ミーツは、店舗ごとにコンセプトが違いため、並んでいる商品のラ



▲運が良ければHUCポイント5000P!



▲かわいらしい立方体「酒粕」

インナップも異なります。いろんな東川の顔を見つけに、「ミーツめぐり」してみても面白いかもしれませんね。ちなみに、お買い物をされた方先着100名にプレゼントされたてん月庵(南町1)の新作「酒粕シフォンケーキ」は、三千櫻酒造(西2号北)の酒粕(さけかす)を使ったスイーツ。中にはほんのり甘酒風味のクリームが入っています。アルコールドリンクなのでお子さんも食べてOKなお菓子です。今後てん月庵の通常ラインナップに加わる予定なので、気になる人は要チェック!

クリスマス待ち望むマーケット

昨年11月26日・12月19日、ギャラリーZenで「クリスマスマーケットひがしかわ」が開催されました(主催:Higashikawaのらしの編集室、協力:東川町(未来チャレンジ補助金))。欧米では、クリスマスの4週間前から「アドベント」(準備期間)として当日を待ち望む日々を楽しみます。今回は「コロナ禍でも家族で素敵なクリスマスを過ごすように」と、ヨーロッパの市場をイメージして東川の作り手を中心となり出展。お菓子や木製のツリー、リースなどのクリスマスアイテムがズラリと並びました。壁にはCIR(国際交流員)から募った写真で



作られたタペストリーが展示され、各国のクリスマスの様子を知ることができました。期間中「東川スタイルカフェ」で提供されたアメリカとカナダを再現したクリスマスランチを味わえば、いっそう気分もUP!4種類のワークショップも行われ、心を豊かにしてくれるアイテムを自らの手で作ることができました。写真は虹の香音(鳥羽明日香さん)による「クリスマスツリーの糸かけアート」。糸の色や太さによって、同じ作り方でも個性が生まれます。「色選びで迷う時間も楽しいね」と、クリスマスアドベントを満喫できたようです。

英語で楽しむクリスマス

昨年12月6日・9日、改善センターで「めだかのクラブ」特別体験講座のひとつ「A Very Merry Christmas(直訳すると「とても楽しいクリスマス」)を開催しました。今回は実験とゲームで遊ぶつ、CIR(国際交流員)のゾエさんとメイウさん、ALT(外国語指導助手)

のドナさん、ハナさん、ジェニーさん、ケルトゥウさん、ラビンダーさんたちと英語でコミュニケーション。小さな子ども物怖じせずに英語で会話できることには、見ているお父さん・お母さんもビックリです。写真は「美



▲音の違うコップを分担して演奏!

験」のひとつで、コップに入った5色の水はそれぞれ量が違います。そのコップを箸で叩くとあら不思議、違う高さの音が出ます。このしくみを使って、「シンガベル」を英語で歌いながら演奏しました。ゲームでは緑色の紙コップをクリ

スマスツリーのように高く積み重ねを競ったり、トナカイのツノに輪投げをしたり。遊びながら英語やスタッフと仲良くなりました。めだかのクラブでは、今年もイースター(4月)、ハロウィン(10月)、クリスマス(12月)に特別講座を実施予定です。お楽しみに!